



安来節

やすきふし

全国に名をとどろかせている民謡



安来節歌詞

素唄

安来千軒 名の出た所 社目様に十神山
 出雲旅路で 安来のまちは 忘れられない唄どころ
 何はなくとも 出雲へござりゃ 心尽しの安来節
 出雲大社で 結んだ帯を 心安来の宵に解く
 恋と銅はよう似たものよ 焼きよ次第で味が出る
 心安来に 思いは隠岐に 波を枕に船の旅
 熱い情に ハガネも溶ける 溶けて社日の花と咲く
 出雲名物 荷物にならぬ 聞いてお帰れ安来節
 恋にこがれて 鳴く蟬よりも 啼かぬ鶯が身をこがす
 お国訛りを ついさどられて 唄いましたよ安来節
 お国ばかりか 外つ国までも 唄いひびかす安来節
 三味の音色は 千両のあたひ 唄は万両の安来節
 さても珍らし 月の輪まつり 夜の安来は人の波

字余り

安来千軒名の出たところ 社目様に十神山
 十神山から沖見れば いずくの船かは知らねども
 滑車のもとまで帆を巻いて ヤサホくと鉄積んで上のぼる



安来節グッズで なりまり どじょうすくいに挑戦!

安来節 グッズ

銭太鼓

ビク

豆絞り・鼻当て

サル

衣装セット

上着(サイズ:M・L)、豆絞り・鼻当て、スポン(フリーサイズ)付き

安来節出演、安来節グッズの注文などお問い合わせはコチラ

安来節保存会 商品ページ <https://y-hozon.com/goods/>



※写真と実際の商品とは異なる場合があります。



観光に関すること

安来市観光協会

〒692-0011 島根県安来市安来町2093-3
 Tel. 0854-23-7667 Fax. 0854-23-7654
 E-mail: mail@yasugi-kankou.jp
 ホームページ <http://www.yasugi-kankou.com/>



安来節に関すること

安来節保存会

島根県安来市古川町534
 Tel. 0854-28-9988 Fax. 0854-28-9393
 E-mail: admin@y-hozon.com
 ホームページ <https://y-hozon.com>



安来節の歴史

元禄七年	天保四年	嘉永六年	明治九年	明治三十八年	明治四十四年	大正五年	大正八年	昭和三年	昭和四年	昭和二年	平成元年	平成十八年	平成二十三年	平成二十六年	平成二十八年	平成二十九年	平成三十年		
1694	1833	1853	1876	1905	1911	1916	1919	1948	1949	1954	1989	2006	2011	2014	2016	2017	2018		
●七七五調の安来節の原型らしき唄が歌われはじめた。安来周辺は良質な鉄の産地であったため、安来港にはたくさんの船が行き来し、物資だけでなく民謡などの文化交流も盛んであった。	●「おさん」という美声の芸妓が唄う、安来節によく似た節回しの「さんこ節」が親しまれた。	●安来に住む大塚順仙という鍼医が「さんこ節」などを改良した音曲をつくり、安来節の原型となる。いろいろな民謡の影響を受けながら安来節として成長していく。	●初代渡部お糸出生。	●「お糸」が注目されはじめ、三味線の富田徳之助と組んで全国を巡業すると人気を博し、安来節の名を全国に広めていく。	●横山大観、山岡米華両画伯が安来節を聞き、「名謡であり、放置するのは惜しい」と、その保存を勧奨する。	●「正調安来節保存会」創立。会長に福島豊市氏が就任。	●神戸聚楽館主催の全国俚謡民謡名人大会にお糸の安来節が主席入賞。これをきっかけにお糸の唄う安来節がレコード化され、安来節が全国的に流行・普及した。	●大阪の吉本興業が寄席の不況の打開策として安来節公演を道頓堀で開幕し大成功をおさめた。これをきっかけに東京（木馬館）と大阪で安来節の専門館が誕生した。	●お糸の一座は日本国内だけでなく、朝鮮・台湾・満州まで遠征し安来節の黄金時代を築いた。	●初代渡部お糸、島根県知事より安来節の振興並びに観光宣伝の功労者として、第一回文化功労賞を受賞。	●戦後初の「安来節全国優勝大会」が開催される。	●初代渡部お糸没。79歳で他界するまで後進の指導にあたった「渡部お糸」の名は受け継がれ、代々の「お糸」が安来節の保存・宣伝・普及に努めている。	●初代渡部お糸の功績を称え、安来市第一号の名誉市民の称号が贈られる。	●安来節の殿堂「安来節演芸館」が開館する。	●安来節保存会創立100周年	●「安来節」が安来市無形民俗文化財に指定される。	●安来市・雲南市・奥出雲町と共同で「出雲の国たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語」が文化庁より日本遺産として認定。「民謡安来節」が構成文化財として位置づけられた。	●地域伝統芸能活用センターより地域商工業の振興に顕著な貢献が認められ、「地域伝統芸能大賞・地域振興賞」を受賞。	●NHK朝の連続テレビ小説「わろてんか」にて安来節のエピソードが登場。



どじょうすくいの起源

昔、安来近郷の若者たちが、どじょうを小川からすくってきては酒盛りをした。そして、酔うと必ず、どじょうをすくう時の動作をまねて踊り、みんなが楽しんだという。

また、「わしが生まれは 浜佐陀生まれ 朝まとうからどじょうやどじょう」という唄があるように、浜佐陀に住む竹内由助という人が、その動作を面白おかしく踊って見せて人気を得たという話も伝わっている。

この踊りが安来節のリズムとよく合って、安来節に合わせてどじょうすくいを踊ることがだんだん広まっていた。どじょうすくい踊りの起源については諸説あるが、一説では砂鉄をすくう動作ともいわれている。

踊り紹介



安来節の女踊りは安来節の調子に合わせて、どじょうすくいの所作を舞踊的にリズムカルに軽快に踊る。女踊りは二人一組で踊り、唄の終わったところで立ち姿を男とし、座った姿を女とする。

踊り紹介



安来節の調子に合わせて 小川でどじょうをすくうときの動作を表現したものである。特に固定した形はなく野趣をそのまま面白く踊り、我流を織りまぜてローカル性豊かに踊ることが好まれる。動作に合わせて特にユーモラスな顔を作ること大切なことである。

● おやじこへ行く 腰に簀下げて 前の小川へどじょう取り
● わしが生まれは 浜佐陀生まれ 朝まとうからどじょうやどじょう
● 唄に千両の 値ぶみがあれば どじょうは万両の味がある



銭太鼓は日本民族楽器の一種で、銭の触れ合う音を利用し、リズム楽器として踊りの伴奏に使用したものである。竹筒に穴のあいた銭を十文字に取付けたもので、安来節の余技としてその独特の野趣に満ちた手振り調子は、安来節と切っても切り離せないものとなっている。

● 何はなくとも 出雲のみやげ ごらん下さい 銭太鼓
● 可愛げりやこそ 毎晩通う 憎うてこの町に 蛇の目の唐傘 骨の数ほど通わりよか
● 竹にすずめはコリヤ あちらの敷から こちらの敷へと チュンチュンバタバタ 羽交えをそろへて品よくとまる
とめてとまらぬコリヤ
三千世界に唄と踊りと銭太鼓

